

A 病棟スタッフにおける新生児のポジショニングに関する実態調査 ～教育内容の検討をめざして～

病棟 3 階 C 足立 真梨香 岡嶋 沙耶香 渡辺 晴香
森上 梨恵 亀山 香代子 遠藤 明美

はじめに

新生児におけるポジショニングの目的を柚木は、「①全身の屈筋緊張を高め、良好な運動発達を妨げる不良肢位を予防する、②知覚・感覚運動能力の発達を援助する、③胎内環境に近い屈曲姿勢を取らせることでストレス緩和・安静保持を行う、④体位変換(皮膚の保護・呼吸器合併症の予防)を行う」¹⁾の4つとしており、早産児や新生児におけるポジショニングは、安静保持・ストレスからの保護、睡眠の増加、神経行動発達の促進などの効果があるとされている。

A 病棟ではポジショニングに対する知識・技術の向上を目的として院外研修への参加、ディベロップメンタルケアチームによる啓蒙活動、新規採用者および異動者を対象にした年1～2回の勉強会を開催している。しかしA病棟のスタッフ間でポジショニングについての相談や情報共有をする習慣があまりなく、一人の児に対してもスタッフによってポジショニングの方法や使用物品が異なるなど統一されたケアが実施されていない現状がある。

先行文献において大島は「看護師は交代勤務であり、子どもは毎日2～3人またはそれ以上の看護師から、それぞれ異なるハンドリングを受けることになる。そのためすべてのスタッフが、子どもの個別性を考慮したハンドリングを実施できることが望まれる。」²⁾と述べている。よって全ての児に一律のポジショニングをするのではなく、それぞれの児の個別性を考慮した上で1人の児に対して全てのスタッフが統一したポジショニングをすることが望まれる。

A病棟におけるポジショニングの改善方法を検討していく過程で、個々のスタッフがポジショニングを行う上で何を指標としているのか疑問に感じた。そしてスタッフのポジショニングに関する知識や技術、意識の違いを明らかにすることで今後の教育内容を見直すことができるのではないかと考えた。

そこで本研究では、A病棟のスタッフにおけるポジショニングの実態調査を行い、児の個別性を考慮し、かつ統一したポジショニングを行うためのスタッフ教育の知見を得たので報告する。

I. 研究方法

1. 調査対象

A病棟新生児集中治療室(以下NICUと略す)、新生児回復室(以下GCUと略す)に勤務している看護師、助産師36名を対象とする。

2. 調査期間

2013年9月～10月

3.調査方法

A病棟スタッフに研究の趣旨、調査方法、倫理的配慮等を用紙を用いて説明した。スタッフの同意が得られたら、文献を参考に独自に作成した無記名式質問紙(回答には選択式、一部自由記載を設ける)を用いて調査を実施し、記入後はアンケート回収袋を設置し回収を行った。

4.言葉の定義

- 1)ポジションとは胎内環境に近い屈曲・正中位を保持する為のケア
- 2)ディベロップメンタルケアとは早産児や病児に対して発育発達を阻害する因子を取り除き過剰刺激から児を保護し神経行動学的発達を促すケア
- 3)新生児とは早産児を含め、A病棟に入院している児全般を示す
- 4)ハンドリングとは「手で扱うこと」「処理・手際」などをさす
新生児を対象とするハンドリングとはオムツ交換、体重測定、体位変換などのケアを行う際の児の扱い方を示す
- 5)DPAPとは経鼻持続陽圧呼吸法(経鼻的に呼気・吸気の全相に陽圧をかけることで、気道の虚脱を防止し呼吸障害を改善させる補助換気法)
- 6)ラダーレベルとはA病棟における到達度を示す。「新人」「一人前」「中堅」「達人」と分類される

5.分析方法

アンケート調査の設問項目を対象者の属性・意識・知識・技術の4つのカテゴリーに分類し単純集計を行う。次に4つのカテゴリーの結果を、自信あり群となし群、認識のずれあり群となし群の2つに分類し比較した。分析・統計処理はSPSSを用いて基本統計、 X^2 検定、ノンパラメトリック検定を行い有意水準は $p < 0.05$ とする。

6.倫理的配慮

無記名でのアンケート調査を実施し、用紙には研究への協力は自由意志によること、協力しなくても何ら不利益は受けないこと、アンケートは回収をもって同意を得られたとみなすことを説明した文書を添付する。アンケート用紙は研究期間が終了した時点でシュレッダーにて破棄しデータの取り扱いには十分に配慮する。データは統計処理して個人が特定されないよう配慮し研究目的以外には使用しない。

II.結果

調査票回収数28名(回収率77.7%)、有効回答数28名(100%)であった。

1.対象者の属性

A病棟におけるラダーレベルは「新人」5名(19.2%)「一人前」10人(38.5%)「中堅」9人(34.6%)「達人」2名(7.7%)であった。現在の所属チーム(NICU所属またはGCU所属)は「NICU」が16名(59.3%)、「GCU」が11名(40.7%)であった。

2.意識

ポジショニングに対して関心があるかの項目では、27名(96.4%)が「ある」、「とてもある」と回答した。必要性については全員が「ある」、「とてもある」と回答した。

「現在の A 病棟で行っているポジショニングについて(複数回答)」では、肯定的な項目と否定的な項目で調査を行った。「他のスタッフのポジショニングを見て参考になることがある」が23名(82.1%)で最も多く、次いで「心地よさそうでないポジショニングをよく見かけることがある」が15名(53.6%)、「囲い込みが上手に活用されていない場面を見かけることがある」、「心地よさそうなポジショニングをよく見かける」が12名(42.9%)であった。

「知識や技術の向上のために個人で行っていること(複数回答)」は、「看護師、他職種者へ相談をする」は21名(80.8%)次いで「自己学習(文献を読む等)」は15名(57.7%)、「マニュアルを参考にする」は5名(19.2%)、「院外研修へ参加する」は4名(15.4%)であった。

3.知識

「ポジショニングにおける各体位のメリット、デメリットを知っているか」の項目では、「はい」が4名(15.4%)、「いいえ」が5名(19.2%)、「全部ではないが知っている」が17名(65.4%)であった。ポジショニング実施後の観察項目では、「全く観察しない」「ほとんど観察しない」「だいたい観察する」「必ず観察する」の4段階で調査した。「全く観察しない」は全項目回答がなかった。「ほとんど観察しない」も「体温」で6名(21.4%)、「動きの制限」で2名(7.1%)でありその他は「だいたい観察する」、「必ず観察する」であった。(図1)「ポジショニングについて誰かに相談や質問をしたことがあるか(複数回答)」の項目では、「ある」は27名(96.4%)であった。相談相手として「看護師」26名(96.3%)、「医師」5名(18.5%)、理学療法士16名(59.3%)であった。相談や質問をしたことがないは1名(3.57%)で「今更質問することができない」を理由として挙げていた。

相談内容に関しては、「週数が若い新生児についての適切なポジショニングなど、呼吸方法(体位ドレナージ)」、「腹臥位の時のポジショニング用具の使い方」、「関節拘縮予防について」、「酸素化が良いと思われる体位・児にとって心地よい体位があるか」、「反り返りの強い児のポジショニングをどうするか」、「超低出生体重児のポジショニング」などであった。ポジショニングの勉強会に参加した人への設問では「参考になり実践している、できそう」は15名(88.2%)、「参考にはなったが、実践は難しそう」は1名(5.9%)、「既に知っている内容が多く、新たな知識は得られなかった」は1名(5.9%)であった。現在行っている勉強会の頻度に関して「少ない」は2名(7.4%)、「調度良い」は25名(92.6%)だった。

ポジショニングを実施するにあたり今後学びたい内容(複数回答可)の項目については、「各体位のメリット・デメリット」は17名(63.0%)、次いで「実技・デモンストレーション」は16名(59.3%)、「ポジショニングの方法」は15名(55.6%)、「ポジショニングの評価方法」は13名(48.1%)、「現在病棟で使用しているポジショニング用具

の使い方」は 11 名(40.7%)、「ポジショニングの効果・目的」は 9 名(33.3%)、「ストレスサイン・安定化サイン」は 9 名(33.3%)、「その他」は 3 名(11.1%)の回答であった。(図 2)

4. 技術

「ポジショニングを実施したことがあるか」の項目では全員があると回答した。自分のポジショニングを 10 点満点で評価すると、「0～2.5 点」が 1 名(3.8%)、「2.6～5 点」が 11 名(42.3%)、「5.1～7.5 点」が 8 名(30.8%)、「7.6～10 点」が 6 名(23.1%)であった。自己評価の根拠として、自己評価点を 5 点以下とした回答者のコメントでは「前勤務者がしているポジショニングを真似しているだけの様な気がする」「適切な体位が実施できているかわからない」「習ったが自信がない」「見よう見真似で学習が少ない」など否定的なコメントのみであった。自己評価点を 5 点以上とした回答者のコメントでは「ポジショニング実施後の安定化が図れている」「勉強会を開いて自分の勉強にもなったため自信がついた」「良肢位が保てる」「酸素化が良好になる、あるいは悪化がほとんどみられない」などの肯定的なコメントもあった。一方「児の体制が崩れていたとき安寧を保てていないのだと自信がなくなる」、「それぞれの赤ちゃんにあったポジショニングができていないか自信がない」、「体位によって自信のないものがある」などの否定的なコメントもみられた。

ポジショニングを行う際に困難と感じるかの項目では、「とてもある」が 1 名(3.6%)、「ある」が 23 名(82.1%)、「あまりない」が 4 名(14.3%)、「全くない」が 0 名であった。「なかなか落ち着かないとき」が 19 名(79.2%)で最も多く、次いで「腹臥位実施時」が 10 名(41.7%)、「挿管管理中の児」が 9 名(37.5%)であった。(図 3)ポジショニングを実施する時の留意点については「まったく考慮しない」「あまり考慮しない」「やや考慮する」「とても考慮する」の 4 段階で調査した。挙げた項目全てに対して「やや考慮する」「とても考慮する」との回答が割合が高かった。しかし「褥瘡予防」、「1 日のスケジュール(検査、面会等)」、「筋緊張」、「成長、発達」の項目では「あまり考慮しない」「まったく考慮しない」の割合が高かった。(図 4)

5.2 群間(自信あり群・なし群、方法・認識のずれあり群・なし群)の比較

「自分が行っているポジショニングに自信があるか」の項目では「全くない」「あまりない」を「ない」、「ある」「とてもある」を「ある」として分析し、「自信がない」が 19 名(67.9%)、「自信がある」が 9 名(32.1%)であった。「ポジショニングに対して看護師間で方法や認識にずれを感じたことがあるか」の項目では、「とてもある」「ある」を「ある」、「あまりない」「全くない」を「ない」として分析し、「ある」12 名(42.9%)、「ない」16 名(57.1%)であった。「自信がない」と回答した人のうち「方法や認識にず

れがある」は 5 名(26.3%)、「方法や認識にずれがない」は 14 名(73.7%)であった。また「自信がある」と回答した人のうち、「方法・認識にずれがある」は 7 名(77.8%)、「方法・認識にずれがない」は 2 名(22.2%)で「自信の有無」と「方法・認識のずれの有無」には有意差を認めた。(p<0.05)(表 1)

1)自信あり群・なし群と対象者の属性

A 病棟平均勤務年数は 3 年 7 か月であった。自信の有無で比較すると、「自信なし」は 2 年 2 か月、「自信あり群」は 6 年 6 か月であり有意差が見られた。(p<0.05)

所属を自信の有無で比較すると「現在の所属」と「自信の有無」には有意差を認めた。(p<0.05)(表 2)

6. 2 群(自信あり群・なし群)、(方法・認識のずれあり群・なし群)の意識

1)意識における自信あり群・なし群の比較

「ポジショニング用具について変更、改善が必要」は自信あり群は 4 名(44.4%)に対して、自信なし群は 1 名(5.3%)と、自信があり群が有意に高かった。(p<0.05)「心地よさそうでないポジショニングをよく見かけることがある」でも自信あり群は 8 名(88.9%)、自信なし群は 7 名(36.8%)と自信あり群が有意に高かった。(p<0.05)(図 5)

2)意識における方法・認識のずれあり群・なし群の比較

「スタッフによって方法が異なる」は、ずれなし群では 3 名(18.8%)、ずれあり群では 8 名(66.7%)と「方法・認識にずれがあり群」の方が有意に高かった。(p<0.05)また、「ポジショニング用具について変更、改善が必要」は、ずれなし群人では 0 名、ずれあり群では 5 名(41.7%)で「方法・認識にずれあり群」が有意に高かった(p<0.05)。(図 6) ずれあり群で「自己学習」を行っているのは 11 名(91.7%)だが、ずれなし群では 4 名(28.6%)であり、ずれあり群が「自己学習」を行っており有意差が見られた。(p<0.05)(図 9)

3)知識における自信あり群・なし群の比較

「学びたい内容」で有意差はみられなかったが、自信なし群では「ポジショニングの方法」が 66.7%、「各体位のメリット・デメリット」72.2%、「ポジショニングの評価方法」55.6%、「ポジショニング用具の使い方」50.0%であった。自信あり群では「実技」77.8%であった。

III. 考察

今回のアンケート調査の結果、96.4%のスタッフがポジショニングに対して関心をもち、全スタッフが必要性を感じると回答しており、先行文献と同等の結果であった。さらに全スタッフがポジショニングを実施しており、28 名中 27 名がポジショニングについての質問をし、半数以上のスタッフが自己学習をしていた。しかし、85.7%のスタッフがポジショニングを行う際に困難を感じており場面として「なかなか落ち着かない時」「腹臥位実施時」「挿管管理中の児」の割合が高い結果であった。また、自身の行っているポジショニン

グに自信がある割合は 32.1%、ポジショニングに対する自己評価は「2.5～5 点」が 42.3%と最も多く、全体では自己評価が高いとは言い難い結果であった。ポジショニングの評価で 5 点以下とした回答者のコメントは「前勤務者がしているポジショニングを真似しているだけの様な気がする」「適切な体位が実施できているかわからない」「習ったが自信がない」「見よう見真似で学習が少ない」などのように兎の個別性を考慮したポジショニングや体位の得手、不得手が原因と考えられる。

自信の有無を A 病棟経験年数で比較すると、自信なし群は 2 年 2 か月に対し、自信あり群は 6 年 6 か月であった。また自己評価においても、0～5 点と回答した人の平均年数は 2 年 2 か月、5.1～10 点と回答した人では 4 年 8 か月であった。経験年数が短いスタッフの方が評価点が低かった。よって、経験年数の短い新規採用者や他病棟からの異動者には早期に勉強会を行う必要があるといえる。自信なし群の学びたい内容としては実技、知識と多岐にわたっていた。豊島らは「勉強会により基礎的知識を向上した上で、ベッドサイドでの実践指導と継続評価が必要であると考える。」³⁾と述べている。経験年数が短いスタッフに対しては、基礎的知識を習得したうえで、ベッドサイドでの実践という段階を経ての勉強会が必要と考える。また経験年数が長いほど自信があり自己評価が高いと言えた。しかし自己評価を 5 点以上とした回答者のコメントにも「それぞれの赤ちゃんにあったポジショニングができているか自信がない」、「体位によって自信のないものがある」などの否定的なコメントがみられ、実践における不安を表している。自信あり群の学びたい内容は、実技・デモンストレーションに集中しておりポジショニングの技術に対する不安を感じていることが推測された。よって、経験年数が長いスタッフに対しては、個々の事例をベッドサイドで実践指導すること、実践後の評価が必要と考える。

A 病棟の現状に対する意識を質問した項目を、自信あり群、なし群で比較すると、肯定的な項目では両群に差はなかったが、否定的な項目においては自信あり群の方が高かった。これは、方法や認識にずれあり群となし群でも同様のことが言えた。結果よりポジショニングに対して「方法や認識にずれがある」、「自信がある」の方が A 病棟の現状の改善が必要と考えていることがわかった。本研究において、自信の有無と方法や認識のずれの有無では関連性を認め、自信のない人ではずれの認識がないという傾向が見られた。自信がある人はずれを感じており、正しいポジショニングを行うために修正することができているが、自信のない人はずれに気づかないため不良なポジショニングがされていても改善するための介入をしていない可能性があると推測できる。以上のことからポジショニングに対して自信のあるスタッフが増えることにより、ずれを認識するスタッフも増加することが考えられる。今後、全スタッフが知識を身につけ、自身のポジショニング技術を向上させることで、ポジショニングに対して自信を持つことができ、他スタッフのポジショニングを見て細かな問題点にも気づくことが可能になると考える。またポジショニングについて誰かに相談している人が多いとの結果がえられたため、スタッフの基礎的知識が向上すれば、相談しながら実践指導やポジショニングへの改善点が見出せ、A 病棟全体のポジショニング技術や知識の向上につながると考える。

ポジショニングを実施する際に何を考えながら行うかの項目では「褥瘡予防」「筋緊張」「成長・発達」「一日のスケジュール」の項目は他と比較してあまり考えられていないという結果が得られた。しかし、新生児の皮膚は成人に比べ薄く脆弱であり褥瘡を生じやすいため、「褥瘡予防」を考慮し皮膚の保護に努める必要がある。また筋緊張が弱く不良姿勢をとりやすく入院中の児に適切なポジショニングが実施されないと有意な下肢のがに股(股関節・足関節の外転・外旋位)など現在だけでなく学童期付近の発達にまで影響を及ぼすため、「筋緊張」「成長・発達」も考慮すべき重要な因子であると考えられる。さらに仁志田は「児がゆっくりと、ストレスを加えられないで休める時間を作ってあげる。例えば、看護ケアや医師の処置、さらには家族の面会などスケジュールを一定の時間にまとめる調節をして、児にストレスを加えない時間を設ける。」⁴⁾としており「一日のスケジュール」を考慮する必要があると考えられる。実施後に何を観察しているかの質問でも、「だいたい観察する」、「必ず観察する」と回答した人が多く、実施後にポジショニングが適切にされているか観察していることがわかった。しかし、「体温」は他の項目と比較して「必ず観察する」割合が低く、「ほとんど観察しない」と回答した人が多かった。仁志田は「新生児は体温調節可能温度域が狭いため環境温度の影響を受けやすく、容易に高体温や低体温になるばかりではなく、無呼吸や代謝性アシドーシスなどの合併症の頻度も大きくなる。」⁵⁾と述べている。新生児は環境に影響を受けやすく、ポジショニング用具の囲い込みで容易に体温は上昇するため、体温を観察する必要性が高いとされている。以上の項目をスタッフへ周知徹底する必要がある。また、今回ポジショニング実施時、実施後に何を考慮し観察するかで挙げた項目は、必ず実施すべきと考えられている項目である。今後全てのスタッフが「必ず観察する」と回答できるよう、スタッフの観察の視点の幅を広げていくための教育が必要であると言える。

IV.まとめ

- 1.A病棟スタッフは、ポジショニングに対する関心が高く、必要性も感じていた。
- 2.A病棟スタッフでは、ポジショニングに対して自信がないと回答した人が67.9%と多かった。
- 3.経験年数が短いスタッフに対しては、基礎的知識を習得したうえで、ベッドサイドでの実践という段階を経ての勉強会が必要と考える。経験年数が長いスタッフに対しては、個々の事例をベッドサイドで実践指導することと、実践後の評価が必要と考える。
- 4.ポジショニングに対して「自信がある」人は看護師間でのポジショニングに対する認識のずれがあると回答した割合が高く、A病棟の現状に問題を感じていた。
- 5.自信の有無別では「自信がある」人より「自信がない」人の方が学びたいと考えていた。
- 6.ポジショニングを実施する際、実施後に観察する項目に関しての問いでは、「一日のスケジュール」「筋緊張」「成長・発達」「褥瘡予防」「体温」等の項目の割合が少なかったため、今後はスタッフの観察の視点の幅を広げていくための教育が必要であると

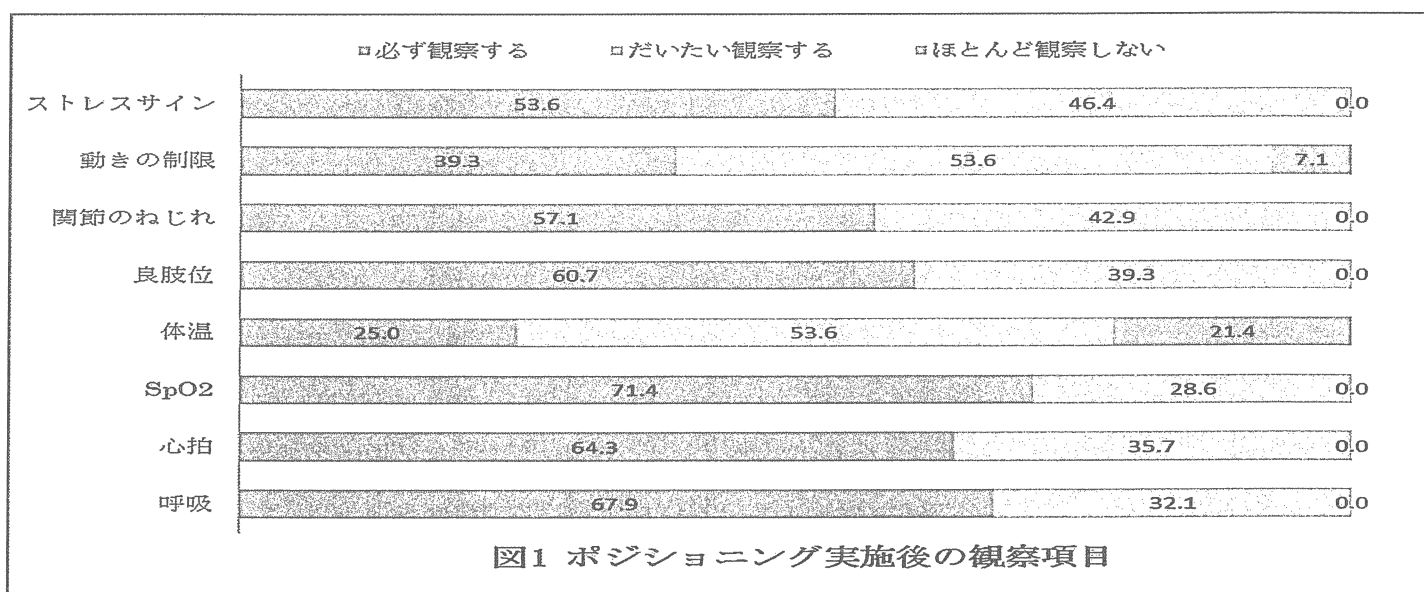
言える。

引用文献

- 1) 柚木麻由子：ディベロップメンタルケアにおけるポジショニング、Nursing Today、25(4)、p102、2010
- 2) 大島ゆかり：ハンドリングの技術で児のストレスを減らすことができるか、Neonatal Care、23(12)、p24-25、2010
- 3) 豊島万希子・阿部理恵：超低出生体重児における腹臥位のポジショニングの検討—足部拘縮予防への取り組み、日本新生児看護学会誌、18(2)、p46、2012
- 4) 仁志田博司：新生児学入門、4、1、p136、医学書院、2012
- 5) 仁志田博司：新生児学入門、4、1、p164、医学書院、2012

参考文献

- 1) 安藤昌美・北川裕佳・横山理恵：ポジショニングに対するスタッフの意識調査-意識改革への取り組みに向けて-、看護研究、26、p47-51、2012
- 2) 木原秀樹：ディベロップメンタルケア(発達ケア)、母子保健情報、62、p33-37、2010
- 3) 木原秀樹：新生児発達ケア実践マニュアル、メディカ出版、ネオネイタルケア、p56-69、2009
- 4) 木原秀樹：早産児の運動発達とディベロップメンタルケア、Neonatal Care、26(2)、p36-40、2013
- 5) 岡園代：基本技術と背景別看護のポイントがわかる！NICU看護技術必修テキスト、メディカ出版、NEONATAL CARE、324、p169-173、2011
- 6) 尊田知美・西田友子：早産児のポジショニング実施に対する看護師への意識調査～現状と今後の課題～、佐賀母性衛生学会雑誌、15(1)、p17-19、2012



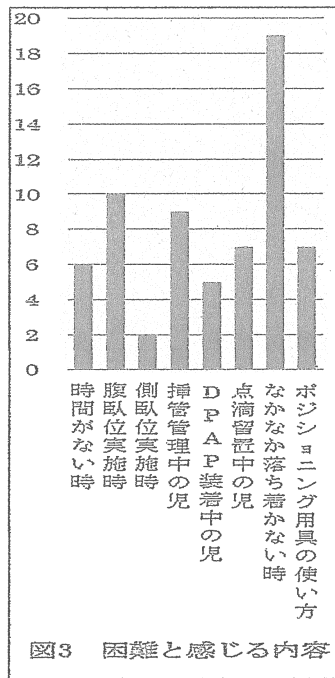
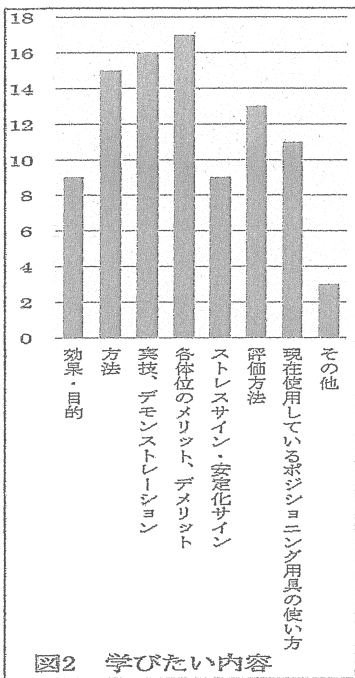
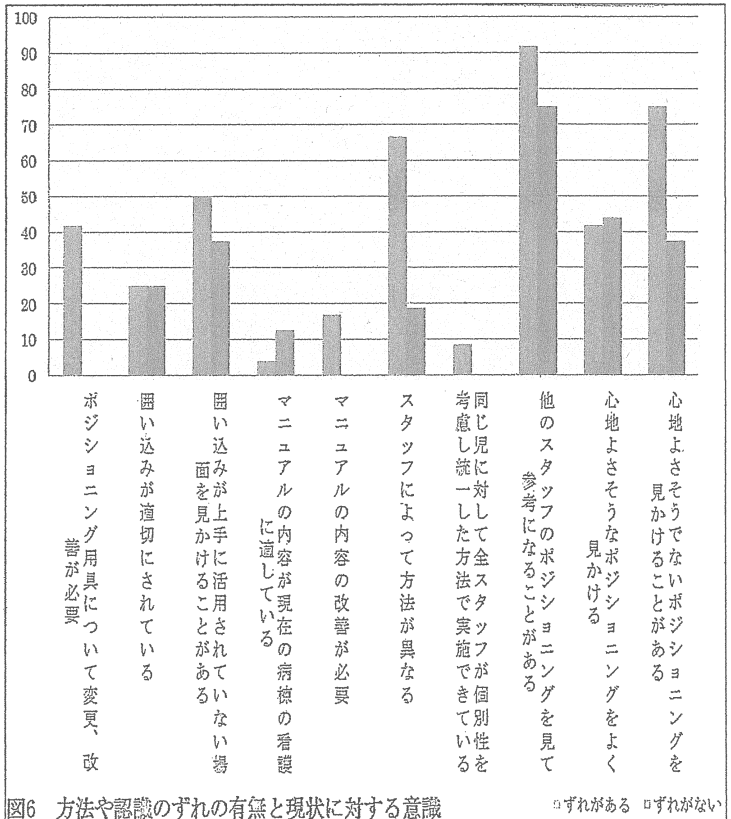
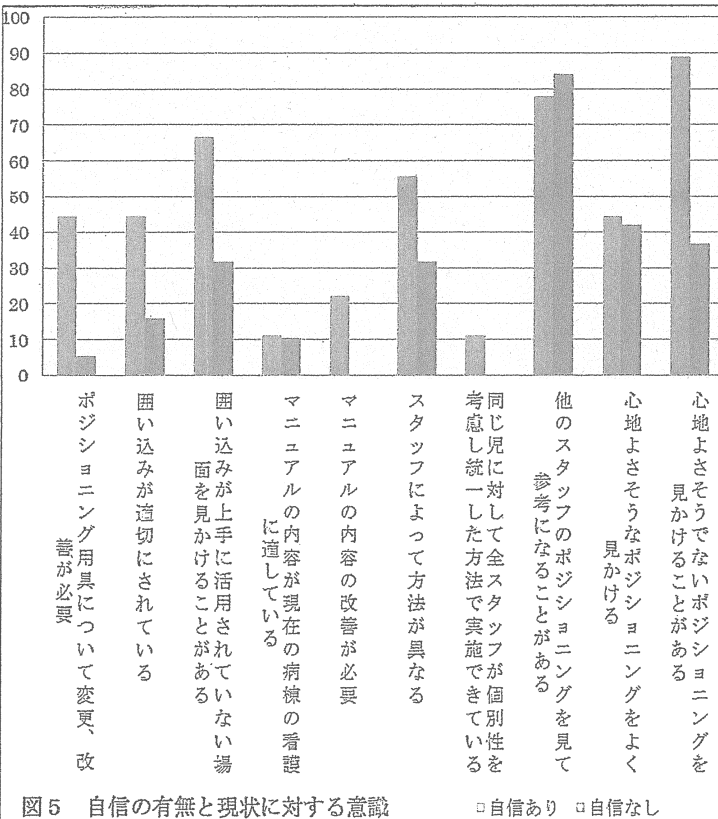
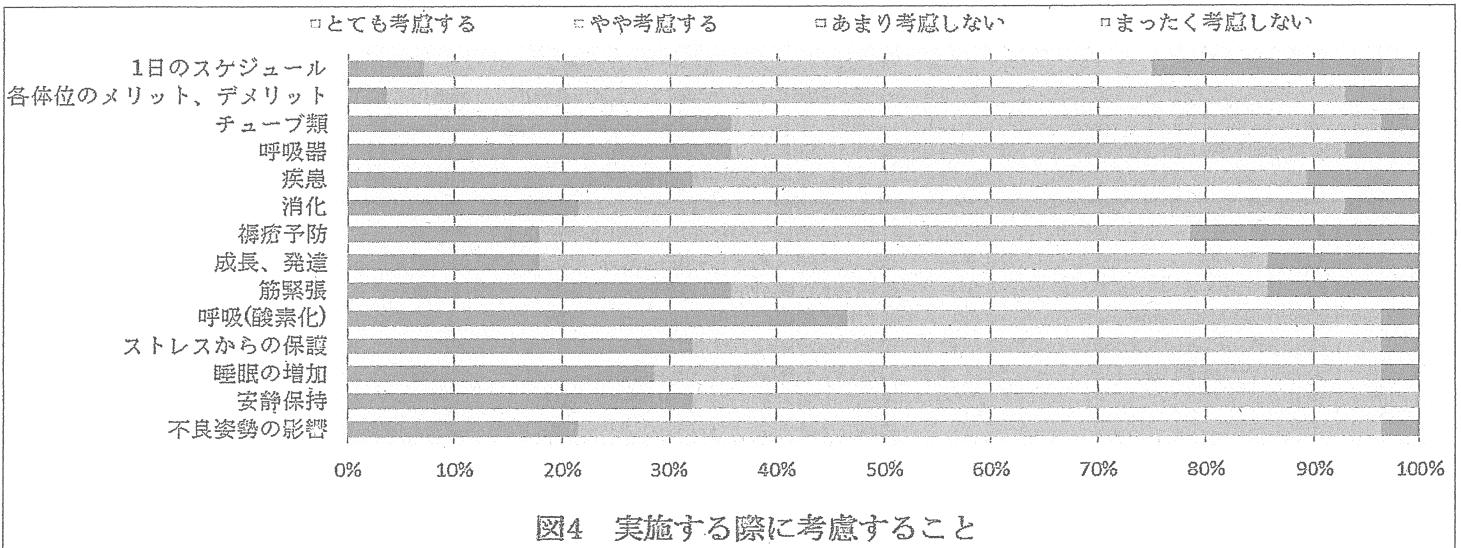


表1 自信の有無と方法や認識のずれの有無 X²検定 *p<0.05

	ずれあり	ずれなし	合計(人)
自信あり	7	2	9
自信なし	5	14	19
合計(人)	12	16	28

表2 所属と自信の有無 X²検定 *p<0.05

	自信あり	自信なし	合計(人)
NICU	8	8	16
GCU	1	10	11
合計(人)	9	18	27



以下の問いについて当てはまる回答を○で選び、数字を記入してください。

性別 3問 C 性別選択年度 (年 7月)

職業 1-4問 2009年7月 GCU 就職年度 (年 7月)
NCU 就職年度 (年 7月)

所属 3問 C におけるグループ (組1 一人前 中置 遅入)

現在所属 NCU・GCU

受け持ったことのある担当 (複数可)

(責任者) オナーマン コット

(得意) DPAP 経典助業 (国際誌翻訳)

受け持ったことのある担当 (複数可)

受け持ったことのある担当 (複数可) 2年~3.2週 3.2~3.6週 3.7週以降)

10. ポジショニングを履修する際に同僚を助けたいと思うか? (e=1の項目を全て履修済として回答する旨に○をつけてください)

Table with 5 columns: ①無視しない, ②やや無視する, ③無視する, ④とても無視する. Rows include: 6. 性格差の相対化, 7. 知識の相対化, 8. スキル差の相対化, 9. 経験差の相対化, 10. 気風・気質の相対化, 11. 性別の相対化, 12. 年齢差の相対化, 13. 学歴差の相対化, 14. 自己のスキル・チャリット, 15. 自己のスキル・知識・態度の相対化.

上記項目以外でポジショニングを履修する際に意識したいことを記入してください。

11. ポジショニングを履修後、意識したい点に上記質問のうち当てはまる項目に○をつけて下さい。

Table with 5 columns: ①全く感じない, ②少し感じない, ③感じない, ④少し感じる, ⑤感じる. Rows include: 1. 知識, 2. スキル, 3. 経験, 4. 気風・気質, 5. 性別, 6. 年齢, 7. 学歴, 8. 自己のスキル・チャリット, 9. 自己のスキル・知識・態度.

上記項目以外で履修する際に意識したいことを記入してください。

資料1 ポジショニングに関するアンケート

1. あなた自身ポジショニングに対して関心がありますか? ①全くない ②あまりない ③ある ④とてもある

2. あなた自身ポジショニングの重要性を感じますか? ①全く感じない ②あまり感じない ③感じる ④とても感じる

3. あなた自身ポジショニングを履修したことがありましたが、得意な点は何ですか? ①いいえ ②他のなかから選ぶ(ある項目のすべてに○をつけて下さい)

①いいえ ②他のなかから選ぶ(ある項目のすべてに○をつけて下さい)

③ポジショニングという言葉を知らない ④ポジショニングをするの価値がないと思っている ⑤その他

4. 現在自分が持っているポジショニングは自分のものですか? ①全くない ②あまりない ③ある ④とてもある

5. 現在の自分のポジショニングの強さを測るとしたらどのくらいの位置ですか? 0 10 (0は最低で10は最高で測ってください)



上記の位置にする上で理由をお書きください。

12. 現在のCで行っているポジショニングについてある程度は満足していますが、Cを○をつけてください。

①ポジショニングに関心がない ②関心がある ③関心があるが満足していない ④満足している

⑤満足しているが向上を望んでいる ⑥向上を望んでいるが満足している

⑦ポジショニングの重要性を感じない ⑧ポジショニングの重要性を感じる

⑨ポジショニングの重要性を感じるが満足していない ⑩満足している

⑪ポジショニングの重要性を感じるが満足している ⑫満足している

⑬満足しているが向上を望んでいる ⑭向上を望んでいるが満足している

13. ポジショニングに対して積極的に関心を持ちたいと思うほどに感じますか? ①とてもある ②ある ③あまりない ④全くない

14. 1,3の②と③を合わせたものを満足とします。①と④を不満と感じますか? ①とても満足している ②満足している ③満足していない ④全く満足していない

⑤他のなかから選ぶ(ある項目のすべてに○をつけて下さい)

⑥満足しているが向上を望んでいる ⑦向上を望んでいるが満足している ⑧満足している

⑨満足しているが向上を望んでいる ⑩向上を望んでいるが満足している ⑪満足している

⑫満足しているが向上を望んでいる ⑬向上を望んでいるが満足している ⑭満足している

⑮満足しているが向上を望んでいる ⑯向上を望んでいるが満足している ⑰満足している

⑱満足しているが向上を望んでいる ⑲向上を望んでいるが満足している ⑳満足している

⑳満足しているが向上を望んでいる ㉑向上を望んでいるが満足している ㉒満足している

㉓満足しているが向上を望んでいる ㉔向上を望んでいるが満足している ㉕満足している

㉖満足しているが向上を望んでいる ㉗向上を望んでいるが満足している ㉘満足している

㉙満足しているが向上を望んでいる ㉚向上を望んでいるが満足している ㉛満足している

㉜満足しているが向上を望んでいる ㉝向上を望んでいるが満足している ㉞満足している

6. ポジショニングを行う際に困難を感じることがありますか? ①とてもある ②ある ③あまりない ④全くない

7. ①と②と同意をされたものを満足とします。③と④を不満と感じますか? ①とても満足している ②満足している ③満足していない ④全く満足していない

①満足しているが向上を望んでいる ②向上を望んでいるが満足している ③満足している

④満足しているが向上を望んでいる ⑤向上を望んでいるが満足している ⑥満足している

⑦満足しているが向上を望んでいる ⑧向上を望んでいるが満足している ⑨満足している

⑩満足しているが向上を望んでいる ⑪向上を望んでいるが満足している ⑫満足している

⑬満足しているが向上を望んでいる ⑭向上を望んでいるが満足している ⑮満足している

⑯満足しているが向上を望んでいる ⑰向上を望んでいるが満足している ⑱満足している

⑲満足しているが向上を望んでいる ⑳向上を望んでいるが満足している ㉑満足している

㉒満足しているが向上を望んでいる ㉓向上を望んでいるが満足している ㉔満足している

㉕満足しているが向上を望んでいる ㉖向上を望んでいるが満足している ㉗満足している

㉘満足しているが向上を望んでいる ㉙向上を望んでいるが満足している ㉚満足している

㉛満足しているが向上を望んでいる ㉜向上を望んでいるが満足している ㉝満足している

㉞満足しているが向上を望んでいる ㉟向上を望んでいるが満足している ㊱満足している

㊱満足しているが向上を望んでいる ㊲向上を望んでいるが満足している ㊳満足している

㊳満足しているが向上を望んでいる ㊴向上を望んでいるが満足している ㊵満足している

㊵満足しているが向上を望んでいる ㊶向上を望んでいるが満足している ㊷満足している

㊷満足しているが向上を望んでいる ㊸向上を望んでいるが満足している ㊹満足している

㊹満足しているが向上を望んでいる ㊺向上を望んでいるが満足している ㊻満足している

㊻満足しているが向上を望んでいる ㊼向上を望んでいるが満足している ㊽満足している

㊽満足しているが向上を望んでいる ㊾向上を望んでいるが満足している ㊿満足している

㊿満足しているが向上を望んでいる ㊰向上を望んでいるが満足している ㊱満足している

㊱満足しているが向上を望んでいる ㊲向上を望んでいるが満足している ㊳満足している

㊳満足しているが向上を望んでいる ㊴向上を望んでいるが満足している ㊵満足している

㊵満足しているが向上を望んでいる ㊶向上を望んでいるが満足している ㊷満足している

㊷満足しているが向上を望んでいる ㊸向上を望んでいるが満足している ㊹満足している

㊹満足しているが向上を望んでいる ㊺向上を望んでいるが満足している ㊻満足している

㊻満足しているが向上を望んでいる ㊼向上を望んでいるが満足している ㊽満足している

㊽満足しているが向上を望んでいる ㊾向上を望んでいるが満足している ㊿満足している

㊿満足しているが向上を望んでいる ㊰向上を望んでいるが満足している ㊱満足している

㊱満足しているが向上を望んでいる ㊲向上を望んでいるが満足している ㊳満足している

㊳満足しているが向上を望んでいる ㊴向上を望んでいるが満足している ㊵満足している

㊵満足しているが向上を望んでいる ㊶向上を望んでいるが満足している ㊷満足している

㊷満足しているが向上を望んでいる ㊸向上を望んでいるが満足している ㊹満足している

㊹満足しているが向上を望んでいる ㊺向上を望んでいるが満足している ㊻満足している

㊻満足しているが向上を望んでいる ㊼向上を望んでいるが満足している ㊽満足している

㊽満足しているが向上を望んでいる ㊾向上を望んでいるが満足している ㊿満足している

㊿満足しているが向上を望んでいる ㊰向上を望んでいるが満足している ㊱満足している

㊱満足しているが向上を望んでいる ㊲向上を望んでいるが満足している ㊳満足している

㊳満足しているが向上を望んでいる ㊴向上を望んでいるが満足している ㊵満足している

㊵満足しているが向上を望んでいる ㊶向上を望んでいるが満足している ㊷満足している

以上でアンケートは終わります。ご協力いただき、ありがとうございました。